



日本女医会誌

復刊第 209 号
2012 年 1 月 25 日発行
題字 吉岡彌生

巻頭言 年頭のご挨拶

会長 津田喬子



わが国を襲った未曾有の震災そして原発事故による放射能汚染は、近年の日本経済の低迷状態へ追い打ちをかけ、計り知れない打撃を与えたと言われていきます。激動の 2011 年を振り返り、私たち医師には何ができるか、何をしなければならぬか？ さまざまな想いと共に新しい年を迎えられたことと思います。

会員の皆様には昨年一年間、私達の活動に多大なご支援とご指導を賜りまして誠にありがとうございました。特に東日本大震災に際しまして、総額一千万円を超える義援金をお寄せいただきましたことは、日本女医会のパワーと会員皆様の利他の想いであることを改めて痛感し、胸が熱くなりました。被災者の方々に、未来を担う子ども達に、会員の皆様に希望の光が灯ることを願わずにはおられません。皆様からの大切な義援金を、希望の光が輝き続くように使わせて頂きたいと考えております。

将来が見えにくいときこそ原点に立ち帰り、日本女医会は「子どもと女性の健康に関する啓発活動」、「女性医師相互の研鑽・地位の向上」、「長寿社会福祉活動」等を推進していかなくてはなりません。今、子どもを取り巻く環境は決して安心できるものではありません。不登校、引きこもり、性の問題に加え、「やさしい虐待」と言われる新たな問題が出てきました。そして子どもたちを目に見えぬ放射能からいかに守るか、大きな課題に直面しています。

2012 年は私たち日本女医会の新たな出発の年としたいと強い気持ちでおります。ご存じのように、2008 年 12 月 1 日に公益法人制度改革 3 法が施行され、5 年間の猶予期間としてその間に公益か一般社団法人かいずれかに移行しなくてはならなくなりました。ここ数年、理事会そして総会において真剣に検討を重ねてまいりました。昨年 8 月 7 日の臨時総会において公益社団法人への再申請をお認めいただき、11 月 2 日に申請を済ませました。認可の暁には、税制上の優遇措置により活動資金を獲得して公益活動を活発化して、社会に一層貢献する日本女医会として会員の皆様の活動が広がるようにしたいと考えています。さらに、その活躍に触発されて新会員が増えることも期待しています。伝統ある歴史にさらに新しいページを加えることができるように、役員一同、心を一つにしております。ご協力そしてご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012 年が、会員の皆様にとりまして新たなご活躍の年となりますことを祈念し、年頭のご挨拶と致します。



日本女医会誌 (第209号) もくじ

巻頭言	津田喬子 (1)
年頭所感	(2)
	澤田香織、鈴木カツ子、豊岡志保、田所浪子、猪狩和子、今井千草、山崎康子、小栗貴美子、保坂智子、野崎京子、延藤文子、大野弓子、樗木晶子、木下晴美、石井伸子、外間登美子
報告	
第 5 回 軽井沢セミナー	小関温子 (8)
市民公開講座のご報告	鈴木カツ子 (10)
支部だより 京都支部の集い	石川知子 (10)

米国女性外科医会 30 周年秋季大会参加紀行	明石定子 (12)
委員会報告	
「若者の性の問題に対する効果的な連携に向けて～女子への性暴力を防ぐ～」を終えて	丹羽咲江 (12)
理事会議事録	(14)
告示	(16)
第 57 回定時総会のお知らせ	(16)
会員動静	(16)
編集後記	(16)

平成24年 年頭所感

人と繋ぐ

北海道支部 北海道女性医師の会 澤田香織

平成23年4月、北海道女性医師の会前会長守内順子先生より、バトンを受け取りました澤田でございます。年頭に当たりご挨拶申し上げます。

昨年は、自然の驚異に曝され、人間も自然界の一部で有り、避けられない不条理のあることを思い知らされました。その中で人との繋がりが希望となりうることもまた身に浸みました。日本女医会の皆様におかれましては、今年は穏やかな年になりますようにと、心からお祈り申し上げます。

前回、初めて参加させていただいた日本女医会の総会では、日本医師会主催の男女共同参画フォーラムでご一緒した先生方の顔も再度拝見でき、すばらしい出会いに感謝しております。リーダーシップを発揮される先生方に学びたい、それがまた、地域で活動するときにエネルギーになっております。

日本女医会のモデル事業だったゆいネットは、平成23年より「ゆいネット札幌」と名前を変え、北海道女性医師の会主催とし、その活動は継続しております。堀本江美先生をはじめ、医学生さんも含む「子供を健やかに育てる委員会」のメンバーが中心となり、7月には全体会議として札幌東豊病院の南邦弘先生より性感染症の現状と予防について、北海道警察の東久司犯罪被害者支援室長より被害者対応やワンストップセンター設立にむけての経過、北海道北高等学校の柴田浩一教諭より高校生が直面する様々な性の問題などについて現況を学びました。10月には公開シンポジウムを開催し、アシストセンターの市川啓子先生より学校の中の子供と親のころへのアプローチや、定山溪自然の村の下川原清貴施設長よりリクリエーションを通じて子供の気持ちをつかむこつ、SCORA Hokkaidoの医学生によりピア・エデュケーションの紹介、日本子ども家庭総合研究所の山本恒雄先生より児童相談所におけるこども虐待の現状と介入とケアについて、様々な立場からのお考えを学びました。参加者もまた、さまざまな職種の方々です。この活動の中で出会った小林郁子北海道議会議員の

ご推薦を受けワンストップセンター設立請願書も提出することができました。平成23年10月13日に採択され、その設立の一步を踏み出したばかりです。関わりある機関や組織は互いを結ぶという“ゆいネット”の名前の由来に感銘を受けました。本当に素晴らしいネーミングです。

また、本会では、もう一つの大切な活動として、北大、札幌大との2大学医学生との懇談会があり、この会もまた医学生との協働で進んでおります。

北海道は広く、各地域でお忙しく活動する先生を結ぶのはなかなか大変ですが、若い先生のご提案でメーリングリストも立ち上がり、この距離感が一気に短縮いたしました。楽しい繋がりがこの会の発展に重要であると感じているところでございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

デクノボー

宮城支部 鈴木カツ子

昨年の東日本大震災、巨大津波を体験し、いま、唇に甦ってくるのは宮沢賢治の「雨ニモマケズ」である。賢治は1896年(明治29年)8月27日岩手県花巻に生まれた。賢治が生まれる約2カ月前の6月15日に「三陸地震津波」が、また誕生から5日目の8月31日には「陸羽地震」が発生し岩手県、秋田県に大きな災害をもたらした。家業の質店で農民が冷害や凶作で困窮する姿もたびたび目撃し、これが賢治の人間形成に大きく影響した。

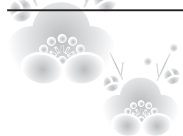
雨ニモマケズの詩は昭和6年11月3日、結核で療養中の病床で、黒い表紙の手帳に書き付けられていた。題名はない。初めから詩として創作したものではなく、生きる信条として発露したことをばをメモのように書き留めたのではないとも言われている。デクノボーは終わりに、ミンナニデクノボートヨバレ ホメラモセズ クニモサレズ サウイフモノニ ワタシハ ナリタイと括られている。

デクノボーを辞書で引いてみると、「木偶の坊：でくとは木彫りの人形、俗にののしる言葉として、そこにいるだけでまったく役に立たない人」とある。賢治

は「土偶坊」と書き戯曲にするつもりで原案を残している。彼は熱心な法華宗の信者で、衆生を救うという使命を持って人間界に戻ってくる菩薩とデクノボーを重ねるイメージで捉えていたのではないかと。菩薩は衆生の人々に在る仏性を拝むという修行を行っていたが、民衆からは気味悪がられ石を投げつけられたり、追い払われたりしていた。菩薩がヘンナ人だと、そして土偶坊だと呼ばれたように、デクノボーは賢治の菩薩道への希求の心であったのではないかと解釈する人もいる。

昭和8年9月21日、賢治は急性肺炎で死去した。享年37歳、生涯独身であった。この年の3月3日に「三陸沖地震」が発生した。地震直後に友人に宛てた見舞いの礼状には「海岸は実に悲惨です」と津波の被害について書いている。誕生の年と最期の年に大きな災害があったことは、自然と交感できた賢治の生涯の暗喩のようにも感じられる。

地域医療に捧ぐ



山形支部 **豊岡志保**

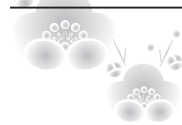
皆様明けましておめでとうございます。平成23年は東北地方では大震災があり、身近なもの、当たり前だったもの、たとえば、安全とか健康への考え方が変化したように思われます。

昨年2月に山形県では、僻地の医療に命をささげた故志田周子先生の生誕100周年の記念講演会が開催され、多数の参加者を得ました。当時先生の治療を受けていた高齢の婦人が「先生がいなかったら、生きていられなかったでしょう」と発言したり、思い出を語りながら涙をこぼしてしまったりした演者もいました。志田先生の診療は、当時としても決して最先端のものではなかったのでしょうか。しかし、日々の診療の中で医師としての職を全うし、地域で生きた姿は参加者の心を打つものでした。医師の仕事はいろいろありますが、その中でも患者さんの治療に当たる以上に大切なことはないかと改めて思いました。

新しい年が皆様にとってより良い年になりますように、被災された方の一日も早い復興を願っております。



天災を乗り越えて絆を深める



群馬支部 **田所浪子**

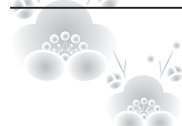
2011年は、千年に一度という大きな天災がありました。2万人を超える犠牲者と多くの被災された方々の生活を一瞬にして鵜呑みにしてしまった、東北大震災は、津波、原子力発電所爆発事故と続き、いまだ立直りの兆しが遅々としております。世界中に報道された災害の状況と、被災された方達の悲しみは脳裏に焼き付いております。その時の被災された方々の、感情を抑え理性を保った秩序ある行動には、日本人の文化の高さが感じられ、必ず復興すると信じられました。日本中、世界中から支援の手が伸べられました。節電という協力も日本中が真剣に行いました。何か力になりたい一人一人が懸命に考えたことです。

群馬県にも、被災された方が多数避難されて来ました。厚労省の素早い対応のもとに特別医療体制がとられ、私どもの診療所にも患者さんがこられました。

血圧の薬、糖尿病の治療、緑内障等、医療には継続が必要です。皆様1カ月くらいでまた移動される方が多かったのですが、つぎの居住先でも医療が続けられたと思います。避難先でも温かい心で接していただいたことでしょう。

大きな災害からの絆の深さは、日本人のカルチャーと誇りです。必ず復興に繋がることでしょう。

新たな活動をめざして



豊島支部 **猪狩和子**

平成24年が会員の皆様、そして日本にとって良い年になりますよう心から願っています。

昨年は、3月11日に起きた東日本大震災とそれに続く原発事故は、日本全体に暗い影を落としました。

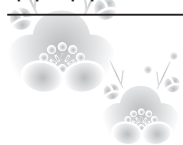
今でも高く積まれたがれきの山や、思うように復興が進まない被災地の現状を見るたびに心が痛みます。その中であって、いち早く義捐金を集め、被災地への様々な支援を開始した日本女医会の活動は素晴らしいと思います。

一昨年、総会の選挙管理委員を務めさせて頂き、その後支部長を仰せつかりました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

豊島区では「とよひめ会」という女性医師有志の会で食事会を行っていましたが、しばらく活動は休止状態でした。

現在の女性医師数は全体の18%ですが、国家試験の女性合格者は30%。医学部の女性合格者が50%の大学もあり、急激に増加する女性医師に対する支援は急務となっています。それに対する日本女医会の果たす役割は大きく、身の引き締まる思いです。各地区の先生方と連携を取り、ご指導頂きながら、新たな活動を活発にして参りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

森林セラピー



都下東支部 **今井千草**

新年あけましておめでとうございます。

昨年 INFOM (国際森林医学会) の森林セラピー専門医に認定され、森の中でゆったり過ごすことで人の体にどんな変化が起こるかを科学的に証明しようという試みに参加しています。

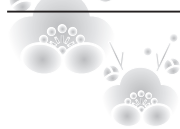
攻撃型の登山は達成感はあるものの、体の中のストレス物質が増えてしまうこと、逆に森に入って寝転んだり、木々や滝、源流を眺めたり、風や葉擦れの音や虫や鳥の声を聞いたり、木や葉の匂いを嗅いだり、木肌に触れたり、お弁当を食べたりしてのんびり過ごせば、血圧や脈拍が安定してストレス物質である唾液中アミラーゼや、コルチゾール等が減少し、非常にリラックスした状態が1か月近く維持することが判っています。特に都会型生活で知らないうちに溜まったストレスにはとても効果があるようです。

INFOM の今井通子氏と共に、森林ウォークに参加した折、元参議院議員で、元オリンピック選手の小野清子氏も同席されましたが、昨秋神戸で臓器移植者スポーツ世界大会が開かれ、選手の方々が健常者とまったく変わりなく元気に活躍された事にとっても驚かれたと伺いました。

また当日は、臓器提供者の遺族の方も世界中から招待されて総勢千人を超える参加者があり、大変心温まる大会であったとのお話にとっても感動致しました。

今年も元気に楽しく、感動するときめきを大切に過ごしたいと思います。

心を一つに



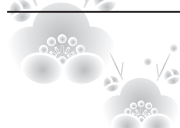
神奈川支部 **山崎康子**

あけましておめでとうございます。昨年の年頭所感の青木正美先生、正に今日の大災害を予感されていたかの文章におどろきました。すでに起こった災害は、正に天災です。しかし、そのあとの放射能汚染は予期すれば防げたのか、想定外だったのかわかりません。しかし、3月11日の大災害は起きてしまいました。

あとは日本人全員で協力して、被害、特に人災をできるだけ少なくすることです。何もかもが放射能被害を受けたかのような報道は他国に対してならばいざ知らず、国民にされるべきではありません。すでに災害から8か月以上経過しています。京都の炬火事件のような風評被害の馬鹿騒ぎはいま直ぐ潰したいものです。

このような災害時こそ、本当に日本人が一つの気持ちになって東北の人々に、その土地にエールを送りましょう。被害を受けなかった人々は直ぐ実践できることをして下さい。

穏やかな年を願って



愛知県支部 **小栗貴美子**

みなさま、あけましておめでとうございます。

世界を震撼させた巨大津波による天災、人災の収束がおぼつかないまま、新年を迎えました。

平成7年の阪神淡路大震災の際には、支部の先輩諸姉が被災地の救援に出向き、千個余のメガネを携えて避難所を巡回いたしました。

今回の東日本大震災で、わが支部に果たしてどんな協力出来るのだろうかと話合いました。JMATに職員を参加させた医療機関もありましたが、距離的に、また交通の寸断等のため、我々には被災地での救援活動にいま一つ足が出ませんでした。

会員の医療機関の窓口に募金箱を置き、ステッカーに被災地医療機関への救援として、患者さんの善意に呼びかけること、これなら何とかできるであろうと全会員にお願いし、日本女医会愛知県支部の名のもとに、7月初めから3カ月間施行いたしました。高齢の患者さんは街へ出る機会が少なく、医療機関で

の募金に積極的に協力してくださいました。支部として、予想以上の義捐金を集めることができ、被災県の女医会に送らせていただきました。幸い、皆さま方全員ご無事で診療に励んでおられると聞き、安堵いたしております。

今年こそ、明るい話題に満ちた一年であってほしいと思っております。

吉岡弥生賞を受賞して20年

此の度内閣総理大臣賞を受賞して

大阪第4支部 全国病児保育協議会 **保坂智子**

2010年11月、東京霞ヶ関の内閣総理大臣官邸によばれ、内閣総理大臣賞を受賞した。

国会議事堂を傍らに望む閑静な環境で、当時の菅直人内閣総理大臣、岡崎トミ子少子化担当大臣が同席され、身内二人の同行が許されて次男を伴っての出席であった。また記念品の楯、賞状が今も傍にある。

働く父母らの子達の病期を見守って42年、年間約1,600人、延べ約6万人余の病児を見守り看護した。

平成3年全国病児保育協議会を立ち上げ、今全国で600余施設、北海道から沖縄まで全都道府県、各市で開催されている。京都大学、岡山大学、北海道大学、琉球大学その他で呼ばれて大学内での病児保育室開設にあたって講演をさせていただいたのを思い出す。

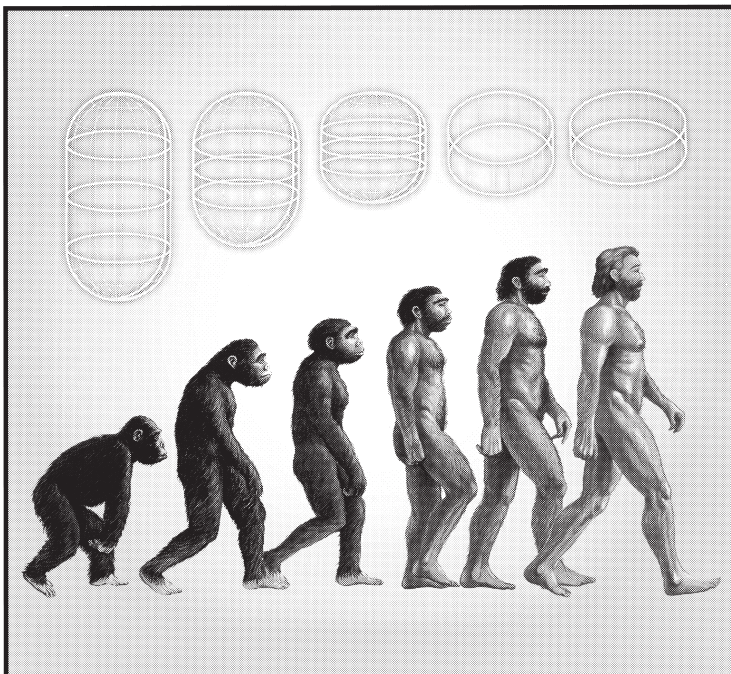
昨年20周年記念大会を全国からの関係者を迎えて大阪で開催、全国大会はすべて学会並みの、学会として育っているとの評価をえた。次代の若いリーダー達も育ち、必要度の一層増す病児保育制度の更なる充実を願って止まない。

新しい時代への期待

大阪第10支部 **野崎京子**

新年明けましておめでとうございます。

日本女医会の公益法人化にむけて、執行部のご努力に敬意を表します。さて大阪には日本女医会の支部が10あります。10支部が集まって日本女医会大阪支部連合会を結成しており、毎年定期的に総会・講演会を開催してきました。また大阪全体として吉馴・



薬価基準収載

■効能・効果、用法・用量、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照下さい。

製造販売元 **あすか製薬株式会社**
[資料請求先] 東京都港区芝浦二丁目5番1号

販売 **武田薬品工業株式会社**
大阪市中央区道修町四丁目1番1号

提携 **Laboratoires FOURNIER S.A. (France)**

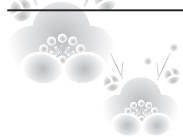
高脂血症治療剤 フェノフィブラート錠 処方せん医薬品^{注)} 注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

リピディル[®]錠 53.3mg・80mg

2011年12月作成

宮本の両先生が毎月東京での理事会に出席して日本女医会の活動に力を尽くしております。最近、女性医師に日本女医会への入会をお勧めしても「女性であることに不便を感じておりません」と断られることがあります。しかし医師会や大学病院や学会などで女性が指導的立場に立つのは現在でもなかなか困難です。ところで医療・介護・福祉・教育などの分野において女性医師の感性と視点を生かした地域での活動は今後ますます重要となってきます。また社会や行政への女性の発言も大事です。このような時こそ日本女医会は頼もしい母体になってくれると期待しております。

災害復興



岡山支部 延藤文子

あけましておめでとうございます。今年こそ、日本中、いや世界中が佳い年でありますように、お祈りいたします。

昨年は、3月11日の東日本大震災、大津波、東電の原子力発電所の破壊。9月には台風12号による大災害。まだ復興の兆しもみえず、あきらめて故郷を捨て、移住した人達も沢山いらっしゃるとのこと。どんな気持ちで毎日を過ごしていらっしゃるのでしょうか。

若い人は気分の転換もできるでしょうが、仮設住宅に残っておられるのは高齢者が多いとのこと。どうか心安らかに希望を持って、新しい生活に慣れて下さい。

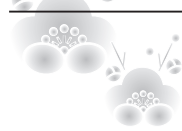
世界に目を向けると、タイの大洪水、トルコの震災、ギリシャの政治・経済の崩壊等々。日本にとっても大きな打撃となりました。タイへこんなに多くの日本の企業が進出しているのを、初めて知り驚きました。

私の住んでいる岡山は、災害の少ない所で、人間がのんびりしているという人もいますが、有難い環境です。

災害は時と場所を選びません。避難所の設定や避難訓練とかいろいろ言われていますが、いざという時に役立つものでなければなりません。警報が出ても、それに従わず、自宅待機をする人も多いと聞きました。折角の行政の努力も活かされないのではないのでしょうか。自分の身は自分で守らなければなりません。平素の心掛けが大切だと思います。

今年こそ平和でありますように。

飛躍を願って



愛媛支部 大野弓子

新年あけましておめでとうございます。

昨年11月初め、いつもより薄目の日本女医会の封筒を受け取りました。中身は、年頭所感を書くようにということです。

3年前、岸澄子先生の後任をお引き受けしたものの何も活動できず、本部、支部の皆様には申し訳なく思っております。県によっては毎年の集まりを欠かさず、会の存在をアピールしておられる所も多々ございますのに。

さて、愛媛県は天災が少なく、人込み、雑踏とも無縁で、静かな瀬戸内海に浮かぶ大小の島々は美しく、また島向こうに太陽が沈む時の夕日の美しさは格別です。しかし、南の方には伊原原発があり、反核の運動も小規模ながら続いています。

女性医師支援に関しては、平成18年に県医師会理事の今井洋子先生が県女性医師部会を設立されました。また、愛媛大学にはマドンナクラブがあり、主に女子医学生5～6年生と女性医師を対象に、男子学生の参加も呼びかけて活動され、まずは学会開催時の託児所の普及などを実行に移されておられます。

愛媛支部としての活動は人数も少なく、入会を勧める斬新なアイデアもない状態で停滞しておりますので、今年は横の関連を少し持たせて頂くことによって飛躍の年となればと考えております。

因みに新聞紙上に載りました愛媛県の幸せ度は27位でした。皆様にとって幸せな実りある一年となりますように。

女性医師のキャリアの 継続を願って



福岡支部 榎木晶子

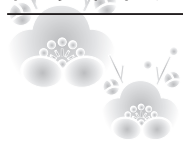
明けましておめでとうございます。昨年は様々な自然の脅威を目の当たりにし、自然の一部としての人間の存在をあらためて認識させられることの多い年でした。被災されました皆様方には心から哀悼の念をささげます。

さて、福岡では九州大学病院を中心に若い女性医師が結婚や育児にともなってキャリアを中断することがないように「きらめきプロジェクト」を立ち上げ、

5年が経ちました。公的病院の多くは医師の非常勤勤務を認めていないところが多くみられます。子育て支援の乏しい環境では、出産育児を契機に常勤としての勤務ができないために、女性医師が辞めざるをえない状況がありました。九州大学病院では、このような女性医師が勤務時間をその生活環境に応じて短縮し、可能な限り勤務を継続できるシステムを作り、医局人事の外枠で働ける制度を作りました。これによって通算34人の女性医師・歯科医師がこのシステムによって勤務を継続し、3年前後この制度を利用した後は正規のポストへの復帰、専門医試験の資格取得などを達成し、活躍を続けています。子育てを続けながら若い女性医師がキャリアを継続するためには男性を含めた医師、特に勤務医の労働環境を整えなければ女性医師のキャリアの継続もあり得ないということが、この活動の中で見えてきました。5年を期に医師の働き様に立ち返って、新たな取り組みを開始したいと念っております。

皆様方のご健勝を祈りながら新年の言祝ぎを申し上げます。

佐賀県女医会史を編纂して



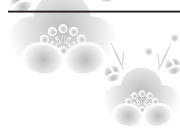
佐賀支部 木下晴美

新年明けましておめでとうございます。

佐賀県女医会は昭和25年に結成、昭和32年に日本女医会佐賀支部が組織されました。現在の会員数は30名と少ない人数ですが、大変まとまりがよく、平成13年：日本女医会総会、平成19年：小児救急の2回にわたる講演会、平成21年より歯科医師会、薬剤師会との女性3師会の継続、医師会主催ですが若い女性医師、女子学生への働きかけ等々、また地域懇談会を会長において頂き開催する予定です。それぞれ得意分野とする先生を中心に積極的に取り組んできました。この度、発足60年を期に佐賀県女医会の活動をまとめることができました。写真が中心ですが、先輩方の生き方、元気さを学び、日本女医会のなかで、身近にロールモデルを見ながら育ったことを痛感しました。女性医師が増加しているなか、医師としての自分に誇りをもち、仕事をつづけ、研鑽を積んでいけるように支援し、体制作りが行われるように応援していきたいと思っております。

最後になりましたが、皆様の一層のご活躍とご多幸を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

支部会のあり方は



長崎支部 石井伸子

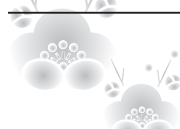
明けましておめでとうございます。

支部長をお受けしてもう10年を超えます。当時支部会員は30名足らずでしたが、一人でも多くの方に参加していただき、また独自の活動が展開出来るように、県内の女性医師に広く呼びかけて、平成11年2月、“長崎県女性医師の会”（ながさき女性医師の会に改名）を立ち上げました。女性医師の直面する課題への対応、環境づくりを目指して、年1回の講演会、総会のほか、女性医師の抱える諸問題、労働環境、院内保育施設等に関するアンケート調査などに取り組んで参りました。会員数は100名を超えましたが、事業への参加者を広げることが課題の一つです。ホームページを立ち上げ、学生との懇談会を開催するなどの試みを継続しています。

近年、長崎でも大学病院において女性専門外来が開設され、平成22年には念願の院内保育施設が新築されました。女性医師の復帰支援プログラムの実施や、また大学全体としても、女性教員、研究者の支援事業などが進んでいます。時代の流れもあるかもしれませんが、これまでの取り組みの成果が少しずつ形になって現れて来ているように思います。会長を引き継いで下さった伊東昌子先生（長崎大学放射線科準教授）並びに役員の方々の努力に感謝しています。

このように、支部会は日本女医会の一部であると同時に、ながさき女性医師の会の一部でもあるというのが現状です。残念ながら、支部の会員数は増えていません。全国との繋がりをどうしたら良いのか、これからの課題かと思っています。

新年に思う



沖縄支部 外間登美子

新しい年が東日本復興の年になりますように祈念いたします。

昨年は東北より遠く離れた沖縄県でも、すべての県民が自分にできる被災地支援は何かと問い続けた一年であったと思います。昨年12月の沖縄県医学会総会の特別講演のテーマも東日本大震災でした。今年も大震災から何を学び、何を次世代に伝えていく

かを考える年になるでしょう。

私は、アジア太平洋公衆衛生学校連合体の代表を昨年まで勤めておりました。震災後に海外で開催した保健教育に関する会議でも、日本のこれまでの人道的国際支援がアジア太平洋諸国で大変高く評価されており、日本が国際社会に支えられていることを強く実感いたしました。日本はこれからもアジア太平洋諸国の目標であり、モデルであり続けることができると思います。

沖縄支部では、嶺井ミツ先生に支部長をお引き受けいただきました。先生は沖縄の日本復帰前より長年地域医療に尽くしてこられており、復帰直前の人口十万人当たりの沖縄の医師数は、全国平均のわずか五割でした。先生方のご苦勞をよく示す数字です。新支部長を支え、新年を沖縄支部発展の年にしたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

報告

第5回 軽井沢セミナー

庶務担当理事 小関温子



馬場先生を囲んで

平成23年10月29日、軽井沢プリンスホテル楡の木ホールで軽井沢セミナーを開催致しました。この日は天候に恵まれ暖かな軽井沢でした。紅葉は残念ながら2日前の霜で少し色あせてしまったようでした。津田会長は早目に軽井沢に入れ、石原先生は駅にお出迎えして、鹿島の森ホテル、別荘地帯の紅葉をご案内されました。

PM5:00からの懇談会は例年石原幸子先生から軽井沢名物「花豆のおこわ」を、先生方からはお菓子のお土産に楽しみも倍増です。参加された先生方の自己紹介から始まり、楽しい雰囲気では話が盛り上がり、講演を控えて時間が足りない位でした。初参加の先生方には食事会での自己紹介をお楽しみにと講演が10分遅れで開催。

講演のテーマ「音楽の力～音楽の治療的側面」は座長の勞を津田会長にとっていただきました。講師の馬場存先生は馬場恭子先生のご子息で東大工学部卒、慶応大学医学部卒後精神科を専攻、音楽に力を注がれて、精神科治療を音楽によって良い結果をもたらした

内容新しい分野かなと思いましたが精神科の先生は音楽好きな方が多いように思います。統合失調症等の薬もかなり開発されほとんど治療可能とのことでした。

馬場先生が「患者はいい医師に恵まれることが完治への道」とおっしゃられたことが、すべてに通じると深く心に残る言葉でした。

● 食事会

今回は和食にしましたが大変おいしいとの評価をいただきました。

毎年ご参加いただいている吉崎先生はお元気で楽しい話術に笑い転げる先生も多く、これぞ軽井沢セミナーならではのと思いました。黒1点の馬場先生はまだお若いこともあり、おばさま先生たちの集中砲火を受けてられました。〈女性はおしゃべりなのですね!〉がご感想でした。

● 10月30日は観光組5人

山崎トヨ先生を中心に大型タクシーで観光を楽しまれたようです。Ex・著名人の別荘、万平ホテルでジ



ゴルフ大会優勝の高木先生

なく雪が降る」と地元の言い伝えと聞きました。優勝は高木久佳先生で、優勝カップをプレゼントくださった川村理事のご主人にちなんで川村杯の初回優勝者となりました。石原先生からゴルフボール、靴下などが参加者にプレゼントされました。今年は男性の参加も歓迎です。

今後とも多くの先生方のご参加をお待ちしております。

ヨンレノンに思いをはせて？

● ゴルフ組7人

小雨の中、72ゴルフ北コースでプレイ、毎年このコースはNECの女子オープンで競い合うコースです。1組目は津田喬子、山崎康子、高木久佳、唐沢久美子各先生、この組はゴルフのベテラン2人、ゴルフ部副部長だった先生、槍投げ、砲丸投げの先生などの集まりです。2組目は石原幸子、馬場恭子先生は大ベテラン、小関温子（毎年びり）。楽しいゴルフ大会でした。ゴルフ場には雪虫が飛んでいましたが、〈間も





長時間作用型ARB

薬価基準収載

イルベタン錠[®] 100mg 50mg

イルベサルタン錠 処方せん医薬品^{注1)}

IRBETAN[®] 注1) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

■「効能・効果」, 「用法・用量」, 「禁忌」, 「使用上の注意」等については添付文書等をご参照下さい。

提携 **sanofi aventis**

製造販売元【資料請求先】 **シオノギ製薬**
Metabolic & CV

報告

市民公開講座のご報告——宮城県女医会

宮城支部 鈴木カツ子

と き：平成23年11月6日（日）
ところ：仙台市医師会館 2階ホール
演 題：福島第一原子力発電所事故と放射線の人体影響
講 師：広島大学原爆放射線医科学研究所教授
細井義夫先生

座長を務めさせていただきます宮城県女医会会長の鈴木カツ子です。3月11日の東日本大震災から間もなく8カ月が経とうとしております。あの時の大地震とその後押し寄せた巨大津波により、福島第一原発は大きな事故を起こし、海も陸も空気も汚染されてしまいました。本日は東北大学医学部ご出身の放射線生物学・腫瘍学の専門家である細井義夫先生をお招きし、外部被曝、内部被曝、子どもや胎児への影響、遺伝的影響などについて、放射線に関する疑問にお答えしていただきます。

講演要旨：3月11日マグニチュード9の大地震が発生。40分後大津波襲来。福島第一原発は1号機から6号機まであり、稼動していたのは1号機から3号機までであったが、この原発は大変古く本来は廃炉すべきものであった。非常用電源は半地下へ置いてあったため津波の被害にあい、電源は全て失われてしまった。2日目1号炉建屋が、3日目3号炉建屋が水素爆発、4日目2号炉の核燃料物質が融解、この時が放射線量のピークでほんの数時間以内に各地に拡がった。風向きと炉の温度によりセシウム137（半減期30年）とヨウ素131（半減期8日）の比率は異なる。

甲状腺の内部被曝についてであるが、子どもの

甲状腺の被曝線量（放射性ヨウ素の吸入摂取）が100mSvになると甲状腺がんが有意に増えてくる。この値はヨウ素剤を飲ませたり避難させたりする指標となる。3月12日から24日までの試算値では、飯舘村といわき市を含む広範な地域で100mSvを超えていた。

低線量で起こる影響としては胎児の奇形、精神遅滞などがある。その数値は100mSvであり、今回住民がこの値を浴びることはなかった。遺伝的影響はヒトでは観察されていない。発がんについてはどんなに低い線量でもその線量に応じて発がんの頻度は高まる。若い固体ほど感受性は高い。

外部被曝線量を低下させるには屋外にいる時間を最小限にする。セシウムは土壌に付着し取れないので土壌の表面を除去し深部に埋める。土壌に付着したセシウムは蒸気となることはなく、舞い上がる可能性は低い。建物の屋根や外壁を高压洗浄する。窓の近くで寝ない。内部被曝線量を低下させるには現在は放射性物質は空気中にほとんど存在しないので特別雨を心配する必要はない。長袖、マスク着用の必要はない。窓を閉める必要はない。洗濯物は外に干して大丈夫。今は経口摂取が問題である。

最後に放射能と生活習慣によってがんになるリスクを述べる。受動喫煙は1.02～1.03倍、野菜不足は1.06倍、これらは凡そ放射能100～200mSvを浴びた場合の1.08倍に相当する。喫煙は1.6倍で2,000mSvを浴びた場合と同じになる。放射線だけを特別視するのは間違っていると締めくくられた。

■支 部 ■だ ■よ ■り ■

京都支部の集い

京都支部長 石川知子

1997年、京都駅ビルとともに開業したホテルグランヴィア京都で、2011年3月6日（日）に「京都支部の集い」を開きました。25名の参加で、若い女子医学生、はじめて参加して頂いた先生、新たに入会して頂いた先生とご一緒させて頂くことが出来まし

た。

京都大学乳腺外科の戸井雅和教授に「乳癌治療の個別化」と題して、ご講演を頂きました。当院の患者さんが「京大の乳腺外科は女医さんが多いですね」といわれます。そのことを先生にお聞きすると、医局員の男女比は2：1だと教えて下さいました。諸外国では、乳腺外科はほとんど女性医師で、化学療法を扱う部門は男性医師が大勢を占め、ほかの科との違いがあると話されました。先生はたくさんの質問を分



かりやすく説明してくださり、女性である私たち自身にもためになる講演でした。そのあと全員で記念撮影。

懇親会場へは、照明が消された部屋へ先生と若い女子医学生が先頭に2列になって、ブライダルシャワーをイメージして左右から吹き出すアワの中を入場しました。カクテル部門で優勝したバーテンダーがスポットライトを浴びながら、かっこいいパフォーマンス。ピーチの香りがほんのりとするカルピス味のグラスを手に乾杯しました。デザートは、3人のコックが、すばやくらせん状にむいたレモンの皮にシェリー

酒をかけて、ファイヤー。福引は1等・2等・3等と大中小のクッキーの詰合せ。今話題の茶菓を参加賞に。縁日さながらの手づくり飴細工の実演で、特別に1等・2等はオーダーして作ってもらいました。ドラエもん、セーラームーンなどの人気キャラクターの飴菓子を手し、来春の再会を楽しみに別れました。

片道の 哲学散歩 枯れてこそ

平畑静塔





Bristol-Myers Squibb
Together we can prevail.™





抗ウイルス化学療法剤 エンテカビル水合物錠
バラクルード®錠 0.5mg

創薬 処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること) (薬価基準収載)

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

資料請求先
ブリストル・マイヤーズ株式会社
〒163-1328 東京都新宿区西新宿6-5-1
2010年4月作成



米国女性外科医会 30周年秋季大会参加紀行

品川支部 昭和大学 乳腺外科学教室 准教授

明石定子

2012年の米国外科学会（ACS）の会長はDr. Patricia Numann、ACSでは2人目となる女性の会長だ。本年の万国外科学会（ISW）米国支部の会長も女性である。加えて2011年はAssociation of Women Surgeons（AWS）30周年ということで、女性外科医会（JAWS）の一行4人は10月末サンフランシスコACS会場へとむかった。8月に横浜で開催されたISWで、我々はAssociation of Women Surgeons（AWS）と合同セッションを企画した縁でDr. Numann主催のpresident's dinnerに招待された。立派な招待状にはdress cordはblack tieとあった。既知のAWSのメンバーと同じテーブルになり盛り上がった。翌日はAWSの秋季会合である。Women, Power and Moneyと題する財務に関する勉強会、making technology work for you（スマートフォンやsocial networkingの使いこなし方）、アメリカならではの音声認識システムでのカルテ入力方法の勉強会などが開催された。また朝食会場は女性レジデント、女子医学生のポスター会場となっており、最優秀ポスターの選別が行われた。



Black tieに身を包んだ矢永勝彦教授（ACS次期日本支部代表）を囲んで。パーティーのあとで

夜は30周年記念の夕食会。30年の軌跡をたどりつつ、功績のあった方々、最優秀女性レジデントなどが次々と表彰され、会場から称賛を受けた。我々JAWSもAWSとのコラボレーションを紹介していただき、会場からおしめない拍手をいただき、感激した。翌朝のnetworking breakfastはなんとデパートの中で開催された。スタイリストが登場し、忙しい女性医師にコーディネート解説をしてくれるという斬新な企画であった。先達として我々も今後取り入れたい企画満載であったし、何よりも外科学会をリードする姿に我々は随分と肩を押ししてもらった機会となった。

日本女性外科医会は発足2年を迎え、会員数は170名を超えた。今後ともご支援ご協力のほどよろしく願います。



「若者の性の問題に対する効果的な連携に向けて ～女子への性暴力を防ぐ～」を終えて

愛知県支部 子育て支援委員会 丹羽咲江

2011年11月13日にウインク愛知（名古屋）にて、「若者の性の問題に対する効果的な連携に向けて～女性への性暴力を防ぐ～」と題して、6名の講師をお招きし、講演会を開催した。この講演会は内閣府、男女共同参画推進連携会議からの助成を受けて内閣府、男女共同参画推進連携会議、日本女医会、愛知、思春期研究会（ゆいネットin名古屋）が主催した。参加者は132名であり、職種は医師・警察・行政・教員・心理士・学生など多方面に渡った。

①産婦人科医師である蓮尾豊氏は、低用量ピルのメリットや望まない妊娠が疑われた時の緊急避妊ピルの有効性について話された。また、子宮頸がん罹患の予防に関して、その原因であるヒトパピローマウイルスとそのワクチンの特徴を話され、女性を守るべき性教育のあり方を講演された。性教育を進めるためには、医師のコミュニケーションスキルも必要である

と語った。

②日本子どもの虐待防止民間ネットワークの理事長である岩城正光氏は、弁護士として様々な事例経験から、性被害を受けた子どもから事実を聞き出すことの難しさを述べ、事例を紹介しながら早期発見の重大さと早期に専門機関（警察・児童相談所など）へつなげ、対応することの必要性を話された。

③私学性教育研究会主任であり教諭の中谷豊実氏は、愛知県の高校生（6,500人）を対象にした性のアンケート結果から考察できたことを紹介された。2003年と2009年の高校生の実態の比較やクロス分析によりみえてきたものは、「薄くなる関係性」に人と人とのつながりを望まないという現代の若者の意識が浮き彫りにされたことであったと報告された。また、自分と同じように相手の人を大切に思うことが「愛」だということを強調された。

④性同一性障害である安間優希氏は、当事者として「性の多様性」を中心に話をされた。性同一性障害は、病気や障害のイメージが強いが、性には「戸籍」の性・「身体」の性・「性自認」の性・「性表現」の性・「性指向」の性があり、これは二次元ではなく、グラデーションであるということを強調され、性についての理解を求めた。

⑤世界エイズデー in 名古屋実行委員会の委員長である医学生伊藤桜氏は、全国や愛知県の HIV 感染者およびエイズ患者の現状を話され、検査受診率の低下や HIV 感染者の増加について報告された。若年層の HIV 感染が増加傾向にあり、予防するためには若年層が興味を持つよう、身近な一般市民が予防啓発活動をすることが重要であると話された。

⑥愛知県警子ども女性被害者防止対策室長である堀尾理氏は、性犯罪は被疑者が悪く、被害者が決して悪いわけではないことを強調された。被害状況の特徴を述べ、性犯罪を防止するヒントや犯罪に巻き込まれないために日ごろから意識して欲しいことを話された。被害に遭うリスクを一つでも下げることが大事と締めくくった。

日本女医会子育て支援委員会では、2008 年度から

「十代の性の健康」支援ネットワーク作り事業（ゆいネット）に取り組んでいる。この事業は親や教師が対応に苦慮する若者の性の問題（妊娠、中絶、レイプ、デートDV、新生児破棄、STD/AIDS、性犯罪等）について地域で適切かつ速やかに連携できる子育て支援ネットワークを構築し、その効果性をより高めるためのものである。医療、保健、教育、警察組織等を横断した連絡会を結成し、青少年の性の健康を守り、ひいては地域全体の子育て力を向上させることを目的としている。

今回の講演は一演題に30分と短い時間であったが、他職種の現状や報告を聞き、より効果的な連携に向けての礎となった。また子どもや女性を暴力から守るため、どうしたらよいかをいろいろな角度から考える会になった。



薬価基準収載

子宮内膜症に伴う月経困難症・
機能性月経困難症治療剤

ルナベル[®]配合錠
LUNABELL[®] tablets

ノルエチステロン・エチニルエストラジオール配合製剤

処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること）

●「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等については製品添付文書をご参照ください。

販売（資料請求先：学術部）
日本新薬株式会社
〒601-8550 京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14

製造販売元
ノーベルファーマ株式会社
〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町12番地10

ルナベル：ノーベルファーマ株式会社 登録商標

2010年12月作成A4/2

(((理事会議事録)))

日時：平成23年9月17日(土)午後3時
 場所：(社)日本女医会会議室
 出席者：津田、古賀、松井、山本、秋葉、安部、大谷、小関、川村、諏訪、高原、塚田、対馬、濱田、藤川、宮本、矢口、山崎、横須賀、森川、中井(21名)
 欠席者：澤口、前田、宮崎、山田、吉馴(5名)

・8月理事会議事録を承認

報告事項

- <庶務部報告>** (山崎理事)
- 1) 8月理事会を京王プラザホテルにて開催。(8/7)
軽井沢セミナー参加募集のお知らせを発送。(9/9)
小関理事より、セミナーの概要説明があった。
 - 2) 中山年子先生日本女医会吉岡弥生賞受賞祝賀会(中野区医師会主催)に出席。(小関理事)
- <会計部報告>** (大谷理事)
- 1) 8月分の収支を承認。

<広報部報告>

- 1) 日本女医会誌208号を10月末に発行予定。(対馬理事)
- 2) 8/1~8/31までのホームページのアクセス数について(横須賀理事)
- 3) HP更新の手続きの再確認事項が横須賀理事より提示された。
- 4) 津田会長より、広報部から各部に対してコンテンツ更新の提案をするようコメントがあり承認された。
- 5) 会誌広告についての報告(秋葉理事)

<学術部報告>

- 1) HPの「新薬トピックス」に「禁煙補助剤チャンピックス」(山本蒔子先生執筆)についての原稿をアップ。
- 2) HP「新薬トピックス」を「新しい医療とトピックス」に変更することを承認。

<委員会報告>

- 1) 女性医師支援委員会(山本副会長)
・「第5回 医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム」をルークホールで開催。(9/4)
- 2) 子育て支援委員会(対馬理事)
・地区ゆいネットの開催について 10/1 岐阜、10/23 札幌、10/30 岡山、11/13 名古屋においてシンポジウムが開催されるとの報告。

<NC報告>

- 1) 西太平洋地域会議の会計についての報告。

<その他の報告>

- 1) 霜田雅子事務員の退職についての報告。

(津田会長)

継続審議事項

1. 公益法人申請について(津田会長・松井副会長)
1) 公益法人化に伴い、現在の長嶋会計事務所との契約を解消し、新たに公認会計士の長岡美奈氏と契約を交わす旨、またそれに伴う予算について審議を行った。<承認>
2) 津田会長より、公益法人化についての将来的な会の運営等について再度慎重に検討したい旨、また理事各位についても熟考を要する発言があった。
2. ブロック懇談会について(宮本理事)

- 1) 平成24年1/22(日)、または2/25(土)いずれかの日程で佐賀での開催が検討されており、横須賀理事が再度佐賀支部で検討の上、日程を決定し、メールで各理事に配信することとなった。(横須賀理事)
- 2) 別候補の岩手県は、総会開催の可能性もあり。
※総会の開催年度、および会場の確認
H24年度総会 岐阜
H25年度総会 東京
H26年度総会 群馬
H27年度総会 岩手(未定)

審議事項

1. 平成24年度社会福祉振興助成事業について、津田会長より申請が速やかに行われるよう準備を行うこと、また、従来の事業にとどまらず新たな事業計画の立ち上げにも尽力されたいとの要請があった。(津田会長)
2. 第57回評議員会・総会(H24.5/19 5/20)について(山崎理事)
1) 講演について
清島真理子先生を演者として承認。<承認>
2) アトラクション(宝生流の能)について(山崎理事)
上演の時刻、出演料などを確認の上、情報を庶務部よりメールで配信する。
3. 長寿福祉委員会事業について(山本副会長)
今年度中にいずれかでたんの吸引事業を行うことが承認された。<承認>
4. その他
1) 宮城支部から申請の23年度市民公開講座(11/6)について(古賀副会長)
<承認>
2) 「日本女医会 提言論文募集」の詳細については、別紙の通りとする。<承認>
3) 宮城県内の資料保護活動に関する支援について(津田会長)
女医会の予算からの捻出はできないため、各理事個人からの寄付を集め後日先方に振り込むことに決定した。

以上

日時：平成23年10月16日(日)午後2時

場所：(社)日本女医会会議室
 出席者：津田、古賀、松井、山本、安部、大谷、小関、川村、澤口、諏訪、高原、濱田、藤川、宮本、矢口、山崎、山田、横須賀、森川(19名)
 欠席者：秋葉、塚田、対馬、前田、宮崎、吉馴、中井(7名)

- ・9月理事会議事録を承認
- ・開会に先立ち、11月理事会以降については、報告事項、審議事項を入れ替え、審議後に各部の報告を行う旨、山本副会長より通達があった。

報告事項

- <庶務部報告>** (小関理事)
- 1) 9月理事会を日本女医会会議室にて開催。(9/17)
 - 2) 第5回軽井沢セミナーについての概要説明と、引き続き参加の呼びかけがあった。

<会計部報告>

- 1) 9月分の収支を承認。(濱田理事)

<事業部報告>

- 1) 提言論文募集事業の賞金を一人2万円とすることを確認。

<渉外部報告>

- 1) 国際婦人連絡会より「慰安婦問題の解決を求める要望書」を政府に提出した旨周知してほしいとの依頼があった。
- 2) 平敷淳子先生が、国際婦人年連絡会の推薦により日本政府代表顧問として国連会議に出席されることが決定した。
- 3) 国際婦人年連絡会に、日本女医会がどのような取り組みを行っているかについて執筆の依頼があったので、矢口理事が中東情勢をメインに執筆にあたることを決定した。

<広報部報告>

- 1) 10/5に広報部会を、日本女医会事務局にて開催。(出席者：秋葉・対馬理事)
- 2) 日本女医会誌208号を10月25日に発送予定。
- 3) 8/1~8/31までのホームページのアクセス数についての報告。
- 4) ホームページ更新の報告。「講座・催し物情報」「社団法人日本女医会第1回提言論文募集」(横須賀理事)

<学術部報告>

- 1) 東京女子医科大学第三内科(糖尿病センター) 医局長三浦順之助先生に「新しい医療とトピックス」に原稿の執筆を依頼。

<委員会報告>

- 1) 女性医師支援委員会(澤口理事)
・次回のシンポジウムは、実際に現場で活躍をされている女性医師をお招きするなど、今後委員会で話し合っていきたい。
- 2) たんの吸引事業について
・助成金を受けた場合を想定し、事後調査、

アンケートなどの調査を行う必要がある。

< NC 報告 > (矢口理事)

- 1) Dr.Nancho からの学生会員についての要望については、NC に対応。

< その他の報告 >

- 1) 「平成 23 年度医学生、研修医をサポートするための会～将来を担う医学生、研修医のために～」(日本医師会・神奈川県医師会共催) に出席した旨の報告があった。

(小関理事)

これに伴い横須賀理事より、佐賀支部の現状などの説明があり、今後の日本医師会主催の研修会、シンポジウム等に共催等をとれるよう働きかけることは可能か否かを審議事項とすることとした。

- 2) 霜田雅子事務員の退職についての報告。

(津田会長)

継続審議事項

1. 公益法人申請について

(津田会長・松井副会長)

- 1) 一般社団ではなく、公益社団を申請することの意義について、津田会長から改めて説明があった。
- 2) 山崎理事より、公益法人化とその後の存続について再度質問があったため、羽田氏より説明があった。
2. 東日本大震災被災地への継続的支援、義援金の用途については、11月に津田会長が県立高田病院を訪問し、現状を視察し、具体的な支援案を練りたいとの報告

があった。

3. 岐阜総会について (山崎理事)

アトラクション、おみやげ品などについて承認。

4. 日本女医会入会のご案内に添付するカバーレターの文言に、学生向けのを加える。詳細については、事業部で原案を作成し、次回の理事会で諮る。

審議事項

1. 公益法人用会計ソフト、および新 PC の購入について、津田会長、柳澤事務局員からの説明があり、承認された。

2. 「若者の性の問題に対するより効果的な連携に向けて～女性への性暴力を防ぐ～」(11/13 愛知) のチラシ・ポスターの印刷費を承認。 (松井副会長)

3. 監事の任期、欠員の補充について、森川監事より定款の変更の提案があり、来年の総会までに内容の整備が求められた。

4. 12/18 の 12 月理事会終了後に忘年会の開催を決定(京王プラザホテル)。

5. 第 57 回社団法人日本女医会定時総会

- 1) 講演について

清島眞理子先生を演者として承認

<承認>

- 2) アトラクション(宝生流の能)について

(山崎理事)

上演の時刻、出演料などを確認の上、情報を庶務部よりメールで配信する。

6. 雑誌「いきいき」の記事執筆について、

担当編集者の番野氏に雑誌変遷の経緯を伺い、正式な依頼文を事務局宛てにお送り頂くよう要請し、次回の継続審議とする。

7. 公益法人申請について

- 1) 羽田氏より H24.4/1 からの公益法人化が実現した場合、3月の理事会までには事業計画書、予算を確定するよう依頼があった。

- 2) その他、申請用資料に基づき事業内容、予算、財源などについて説明があった。

- 3) 公益法人化後の存続について質疑応答があり、公益性の高い事業の展開と会員数の増強の重要性を確認した。

8. 津田会長、松井副会長より、今後の理事会のありかた、方向性などを 11 月以降の理事会から審議していく旨通達があった。

9. 東京女子医科大学学園祭での日本女医会のポスター展示を承認。

以上



直接トロンビン阻害剤

プラザキサ®

75mg
カプセル 110mg

ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩製剤

処方せん医薬品

(注意-医師等の処方せんにより使用すること)

Prazaxa® Capsules 75mg・110mg

「効能・効果」「用法・用量」「警告・禁忌を含む使用上の注意」「用法・用量に関連する使用上の注意」につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

〒141-6017 東京都品川区大崎2丁目1番1号

資料請求先: DIセンター



2011年9月作成

告 示

日本女医会定款第二十四条に基づき、平成二十四年五月二十日（日）、岐阜都ホテルにおいて、平成二十四年定時総会を開催いたします。

同時に第十五条の規定により、現役員任期満了に伴う役員選挙を行います。

尚、立候補の届出は、定款施行規則第十七条により、平成二十四年三月十九日（月）必着で、日本女医会事務局までお願い致します。

▼選挙に関する定款及び定款施行規則の抜粋

定款第十四条 理事二十一名以上二十五名以内（内会長一名・副会長三名）監事二名（内一名は部外者）

定款施行規則第七条 選挙人は選挙の九十日前までの正会員とする。被選挙人は、入会後三年経た正会員とし、会費完納者とする。

定款施行規則第十七条 立候補者は選挙の告示のあった日から選挙の六十日前までに立候補届を文書で理事会に届け出なければならぬ。

届出書類

- (一) 立候補届
- (二) 規定の履歴書

立候補届に関する書類（一）（二）につきましては、日本女医会事務局にお問い合わせ下さい。

立候補は自薦のみです。

社団法人日本女医会 第57回定時総会のお知らせ

新しい年を迎え、諸先生方にはご清祥にてご活躍のこととお慶び申し上げます。さて第57回日本女医会定時総会は、岐阜において下記の予定で開催されます。

また、本年は日本女医会の役員改選の年でございます。多くの方にご参加して頂きたく、皆様お誘い合わせの上、是非ご出席を賜りますようお願い申し上げます。

<会場> 岐阜都ホテル 〒502-0817 岐阜県岐阜市長良福光 2695-2 TEL: 058-295-3100

平成24年5月19日（土）	平成24年5月20日（日）	
評議員会：15:00～16:30	定時総会：10:00～11:30 昼食：11:30～13:00 選挙：13:00～14:50 講演会：15:00～16:30	同日開催・講演会 講師：岐阜大学大学院医学系研究科皮膚科病態学教授 清島眞理子先生 「難治性皮膚疾患の治療最前線」 ※時間と内容は多少変更する場合がございます。 詳細につきましては次号にてお知らせ致します。

◆評議員及び予備評議員の改選◆

定款施行細則第24条により、各支部において評議員1名、予備評議員1名（再選可）を選出され、平成24年3月末までに本部にお届け下さい。

尚、新評議員及び新予備評議員の任期は平成24年4月1日から26年3月31日までとなります。

会員動静（2012年1月5日現在・敬称略）

入会	卒年度	木 許 泉 平成11（愛知）	退会	6名
玉木光子	昭和62（岩手）	窪田泰江 平成8（愛知）	物故	卒年度
塚田訓子	平成11（杉並）	新海佳苗 平成6（愛知）	藤居静子	昭和7（新宿）
木下裕子	昭和50（愛知）	清川悦子 平成5（石川）		

編集後記

いろいろあった2011年明け、2012年スタートいたしました。どんな年になるか想像もできませんが、少しでも明るい兆しが見えてほしいと願っています。新聞やテレビの報道では未だ復興の姿が見えません。

各支部長先生方から年頭に寄せての寄稿があり、にぎやかな209号になりました。有難うございます。広報委員として原稿がいただけるほど嬉しいことはありません。今後ともよろしくお願いいたします。

日本女医会は今年度より公益法人への移行という大事業が始まりますが各会員の一致団結した気持ちで成し遂げられると信じています。今後は会員以外からも寄稿をいただき、今以上に内容の濃い、読み応えのある『日本女医会誌』を目指します。

また時代に沿ったHPの充実が課題です。会員、会員以外の目に触れるような内容を日々更新していきたいと努力していますがなかなか思うように進みません。これも皆様方の協力を必要といたしますので、重ねてお願いいたします。 秋葉則子

日本女医会誌

復刊第209号 2012年1月25日発行
編集人 対馬ルリ子
発行人 津田 喬子

制作 あづま堂印刷製
発行所 社団法人 日本女医会
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7
青山宮野ビル

TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp
e-mail: office@jmwa.or.jp